

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

<file:///C:/scan/20260331212807229.pdf>

施設名	ポピンズナーサリースクール池袋
施設所在地	豊島区池袋本町4丁目46-11
法人名	株式会社ポピンズエデュケア

## 1. 活動のテーマ

&lt;テーマ&gt;

野菜をテーマにした探究活動

&lt;テーマの設定理由&gt;

- ・野菜という身近な食材を通して、子どもたちの好奇心を刺激し、食への関心を高めてもらいたい。年齢や活動内容（栽培、クッキング、制作など）に合わせた活動を多方面から行っていきたい。
- ・実体験を通して「不思議だな」「やってみたいな」という意欲を引き出して行きたい。

## 2. 活動スケジュール

- ①きゅうり、ナスの苗植え⇒5月12日  
水やり、成長の様子を観察、収穫
- ②クッキング「ナスカレー」⇒8月4日野菜の観察⇒9月2日
- ③野菜の観察⇒9月2日  
肉眼、マイクロスコープ、観察画

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

プランター・野菜栽培用土・ジョウロ・きゅうり、ナスの苗・顕微鏡・画材（絵の具、筆、パレットなど）

## 4. 探究活動の実践

&lt;活動の内容&gt;

- ・野菜（きゅうり、ナス）の苗植え、水やり、成長過程を観察、収穫クラスごとにシャベルを持って土入れ、苗植え、ジョウロで水やり。
- ・観察画、肉眼またはマイクロスコープを使って
- ・収穫したナスを使ってナスカレーを作る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・冷たい土の感触を味わう姿が見られる。
- ・苗の葉っぱをそっと触り、指先の感触を保育者や友だちに伝えようとする。
- ・土の感触を嫌がっていた子が、友だちの楽しそうな姿を見て、最後には自分から苗に土をかけようとしていた。
- ・拡大して見た「点々」や「線」をクレヨンや絵の具を使ってダイレクトに描こうとするなど観察眼の深まりの様子。
- ・普段はナスが苦手な子も「自分たちが育てた特別なナス」という誇らしさから、自ら進んで口に運び「おいしい！」と満足げな笑顔を見せる姿。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・土を触るのが苦手な子もいたが、保育者と一緒にシャベルを使うことで、少しずつ土の感触に慣れる姿が見られた。水やりでは、水が土に吸い込まれる様子を不思議そうに観察しており五感を刺激する良い機会となった。一人ひとりの「やりたい」気持ちを尊重しつつ、苗が折れないようさりげなくサポートすることで、最後まで自分の力で植えられたという満足そうな表情が見られた。
- ・「苗を折らずに正しく植えること」を優先し、保育者が主導で進めてしまう場面があった。しかし、土を握りしめて感触を確かめる子や、バケツの水に興味を示す子の姿を見て、この時期の食育において重要なのは「スムーズな進行」ではなく「対象への主体的な関わり」であると改めて感じた。また、こどもがマイクロスコープで発見した際の「不思議」という感情を保育者がもっと語彙（ツルツル、ザラザラ、光ってる等）を添えて豊かに言語化してあげたかった。